教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のＷｉｎ－Ｗｉｎの関係」の構築

東浦町ＳＰ通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 11 号
2023 年 12 月 21 日

編集　緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

ウィークリーSPの活動

１２月１３日（水）、石浜西小学校にＳＰ活動の様子を見に行きました。この日は、２人のＳＰさんが活動してくれていました。２人とも大学４年生の学生さんで、１年以上のＳＰ活動経験があります。とても頼もしいＳＰさんで、この日も学校現場の様子を見て活動時間を延長してくれるなど、子どもたちのためにと活動を続けてくれています。

鹿摩ＳＰは、体育の支援に入っていました。寒くなってきたこともあり、準備運動として軽くランニングし、ストレッチをしていました。子どもたちと一緒に活動しながら、担任の先生の指導もよく聞いていて、子どもの様子を見てさりげなくアドバイスをしてくれていました。その“さりげない”支援・サポートが大変助かります。鹿摩ＳＰは、大学１年生の頃から片葩小学校の「わくわく算数・数学教室」にも参加してくれています。年々、子どもとの距離感が上手くなっているように思います。子どもたちにすっと近付き、さりげなく支援をするのがとっても上手いＳＰさんだなぁという印象です。「４月からは栄養教諭として頑張ります！」とキラキラとした顔で話してくれて、ずっと頑張っていた姿を見ていたので私もとても嬉しく思いました。応援しています。

木村ＳＰは、図工の支援に入っていました。釘打ちをする児童２人を任され、“見守る”姿勢を徹底してくれていました。よくある光景ですが、途中児童同士で少し言い合いになってしまう場面がありました。その時、木村ＳＰは怒ったり指示したりすることなく、「授業が始まったから、静かにやろう！」と声をかけていました。その声かけで、子どもがグッと目の前の教材に向かいました。素晴らしいセンスです。放課中には、子どもたちと一緒にモルモットを触りながら、コミュニケーションをとってくれていました。穏やかで優しいＳＰさんは、子どもたちに大人気です。口で言うのは簡単ですが、“穏やかに余裕を持って子どもと接する”ことは意外と難しいものです。木村ＳＰのふんわりとした温かい雰囲気に、自然と子どもたちも優しい顔つきになっていました。

私自身、ＳＰ活動をしていた時に「どこまで支援したらいいのだろうか」とよく悩みました。今、活動してくれているＳＰさんもそう考えることもあるのではないでしょうか。そのさじ加減というのはとても難しいものですが、「やりすぎていないかな」と考えると一つのラインになるのではないかと思います。「子どもができることを取り上げてしまうこと」「失敗できる経験を奪ってしまうこと」はよくありません。どうしても「助けてあげたい」という優しさからくる気持ちから、手を貸してあげたくなる場面がありますが、グッと我慢して見守ることも大切な支援です。**やらなさすぎず、やりすぎず。**こうした、“子どもを視る力”や“待つ力”は、現場で実際に子どもたちと接しないことにはついていかない力やセンスだと思います。

また、ＳＰさんは授業を見る時間もたくさんあります。現場に出ると、なかなか他の先生の授業をじっくり見る時間はありません。その貴重な経験をＳＰ活動では存分にできます。“ただ見ている”のはもったいない！授業を見るというとどうしても先生を見てしまいがちですが、先生のアクションから**“子ども”が**どんな姿や顔つきになったのかをよく見てみてください。そして、「なんで上手くいくのかな？」「どうしてこうしたのかな？」など、**疑問を持って見ること**もみなさんの“教師力アップ”につながるはずです。疑問をもちながら、たくさん見て学んで、チャレンジしてみてください。先生にしかできないことももちろんたくさんありますが、ＳＰさんにしかできないこと・支援もあります。ＳＰさんだからできること、ＳＰとして活動している“今”だからできることを見極めながら、ステップアップしてもらえたらと願っています。